

真木

第 183 号

〒261-0004

千葉市美浜区高洲

1-14-9-503

田所節子方

千葉県俳句作家協会

事務局

TEL 043-277-1056

〒299-1143

君津市君津台 2-8-4

石井紀美子方

「真木」編集部

TEL 0439-52-6254

目 次

| | |
|-------------------------|----|
| 千葉・県民芸術祭第59回千葉県俳句大会 | 1 |
| 新春交流会のご案内 | 5 |
| 秋季吟行会 | 6 |
| 千葉県俳壇ニュース | 9 |
| ひろば、会員著書紹介 | 11 |
| 第3回千葉県俳句大賞、第32回協会賞の作品募集 | 13 |
| 新入会員一句、受贈誌より、事務局日誌 | 13 |

千葉・県民芸術祭 第59回千葉県俳句大会

◆千葉県俳句大会を終えて

千葉県俳句作家協会が県民芸術祭に参加する千葉県俳句大会は、今年で五十九回目を迎えました。半世紀を超えて脈々と続いてきたこの大会を盛会裡に終了することができましたことを、ご来賓はじめ皆様方にまず御礼申し上げます。

今回は一般の部の事前投句が昨年を大きく上回る二一七六句となり、大会当日各二句ずつの席題句も二一八句に達しました。また一昨年からの俳句の裾野を広げるため「ジュニアの部」（小学生・中学生）をスタートさせましたが、第三回目となる



塩野谷仁実行委員長の挨拶

今年も五〇一名の参加者がありました。当日は一般参加の方々と共に、表彰された児童・生徒ばかりでなく、付添の保護者の顔も見え、高齢化の進む俳句界に若さと活気が漲って未来に明るい見通しとなりました。

今回の招待選者は鳴戸奈菜氏（現代俳句協会副会長・第二回千葉県俳句大賞受賞）にお願いして、特別講演「永田耕衣の世界」を拝聴しました。お弟子さんならではの視点から永田耕衣の名句の数々を紹介され、その世界を堪能しました。

来賓挨拶から応募句表彰・ジュニア俳句表彰・講演会、さらに席題句成績発表などと盛沢山な行事をそれぞれの担当者が遅滞なく会を進めて限られた時間に無事終了することが出来ました。

この場をお借りして改めて、選者の方々、前日の準備からご協力を頂いた役員の皆さんに改めて感謝して結びと致します。

実行委員長 塩野谷 仁



会場風景

千葉・県民芸術祭 第59回千葉県俳句大会

【一般の部】雑詠入賞者

千葉県知事賞 東京 関戸 信治

星飛んで峽はすみずみまで故郷

千葉県議会議長賞 我孫子 原 瞳子

灯されて祭り大きくなりにつけり

千葉県教育長賞 稲敷 岡澤 田鶴

花あやめいのちあるもの水濁し

千葉県俳句作家協会会長賞 松戸 西野 桂子

草笛を吹く一度目は風の音

千葉日報社賞 成田 安部由美子

日の匂ふ秋の簾となりにけり

千葉市観光協会会長賞 木更津 柏崎清一郎

父の日は無声映画のやうに暮れ

優秀賞 船橋 塩野谷 仁

百日紅おこは日暮れどき老ゆる

団扇より眠りに落ちる看取りかな

万の喝采水鳥の皆発てば

声かけるやうに門火を焚ぎにけり

秀逸賞 東京 伊藤 淳子

一番遠い青世から暮れてくる

桐の実が鳴るたび空の澄みゆけり

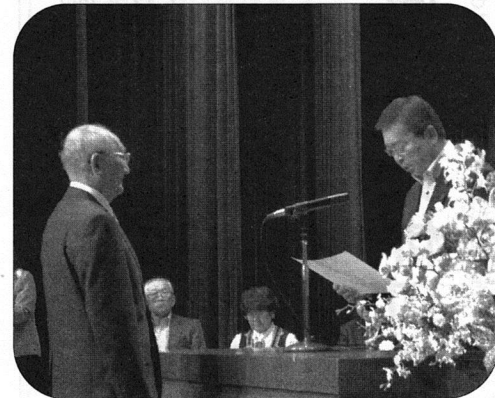
夕闇を沼に引き込む牛蛙

ぬれてゐるなり深吉野の春の闇

市川 楠原 幹子

柏 藤岡 貞夫

市川 楠原 幹子



千葉県知事賞の関戸信治氏

正論のどこか窮屈石榴の実

耳のみが生き炎天の底にゐる

祭囃止めば星降る奥会津

火のごとき沈黙もありしろさるすべり

湧水は地球の鼓動夏つばめ

百歳と幼児の会話夕端居

佳作賞 馬淵 津枝 佐々木リサ 森 孝子

高橋 健文 菊地 喜巳 椿 良松

高津 昌子 湯浅 康右 高橋 葉子

倉岡 けい 佐々木幸子 松尾 清朝

秋尾 敏 石井紀美子

流山 黒澤 雅代

流山 増成 栗人

柏 猪俣 昇

富津 長濱 聰子

市川 本池美佐子

袖ヶ浦 重田 忠雄

郡 香織 岡西 宣江 野口 友子

久野 康子 小林 豊子 清水 伶

望月 晴美 金澤 恵子 北村 操

【ジュニアの部】入賞者

(小学生の部)

千葉県教育長賞 祇園小四年 滝口 悠真

のびちぢみしてのみみずをまたいだよ

千葉県市教育長賞 ちはら台桜小六年 伊藤 桜弥

山の上そのまた上に雲の峰

千葉県芸術文化団体協議会長賞 々々 四年 松本柚子香

そよそよとそうげんゆれるうみみたい

千葉県俳句作家協会会長賞 々々 五年 斉藤 瑞希

はなびらが川にひらりと新学期

千葉県俳句大会委員長賞 々々 六年 西川 愛香

太陽が私の汗を光らせる

千葉県俳句大会委員長賞 南清小三年 モンゴメリ瑛真

トンボがねみずをつんつんたたいてる

優秀賞 村上北小五年 岡田 優生

水色のお空のようなハエたたき

スイカわりたたいてみるとわれてない

ふうりんの音がくるたび風が来る

々々 四年 石井 悠太

かき氷それは小さな入道雲

々々 西 雫花

夏休み思い出いつばい飛んでくる

々々 芦田 麻桜

々々
 プールでねらつこみたいにういてるよ
 々々
 カイコはねエサがないときかおあげる
 秀逸賞
 村上北小一年
 ちはら台桜小三年
 ちはら台桜小四年
 ちはら台桜小四年
 ちはら台桜小五年
 ちはら台桜小六年
 井野小二年
 千葉日本大学第一小一年

(中学生の部)

千葉県教育長賞 中台中一年 神寄葉菜乃
 山百合のいっぱい咲いている古墳

千葉市教育長賞 久寺家中三年 高橋 健太
 木下闇風に揺るるは万華鏡

千葉県芸術文化団体協議会長賞 々々 蓬田 真人
 蛍火が僕らを照らし闇を消す

千葉県俳句作家協会会長賞 々々 本宮 颯馬
 夏の蝶飛べよ飛べよと旅続く

千葉県俳句大会委員長賞 々々 登藤 快人
 揚羽蝶風の吹くまま飛んでゆけ

優秀賞 々々 亀谷 雪乃
 空の下我が身にせまる雲の峰

々々 漆坂 武大
 日に怒り感じ片蔭探す僕

々々 村岡 瑛
 光受け空で輝く黒揚羽

(応募数一人一句 五〇一句)

◆大会記

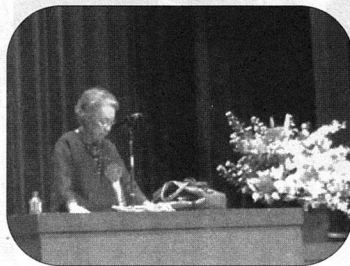
秋霖の中、出席者は、表彰式も含め約一六〇名
 (俳句大会参加者二〇〇名、ジュニアの部の受賞
 対象の少女関係者約四〇名)の参加があり、
 盛大な俳句大会となった。

九時に席題の「木の実」、読み込みの「葉」が
 会場に掲示された。投句締切は十一時。

読み込みの「葉」は、季節の「紅葉、落葉、枯
 葉」の他に「千葉」という意味合いも込めた席題
 となり、どのような句が提出されるか楽しみな句
 会となった。十時の受付前から、参加者が歳時記
 を開きながら、あるいは会場内外の場所で句作に
 とり組み、俳句大会は引き締まった雰囲気となつた。
 本年度は、十一時より俳句大会・第一部の式典
 と、事前応募句の表彰が行なわれた。



能村会長挨拶



講演の鳴戸奈菜先生



来賓 (右より)
 千葉県環境生活部 県民生活・文化課課長 澁谷博之様
 千葉市議会議長 小松崎文嘉様
 千葉市文化連盟会長 藤代謙様
 千葉県芸術文化団体協議会会長 秋原 勲様
 招待選者・講演者 鳴戸奈菜先生

開会式は秋尾理事長の司会進行。塩野谷実行委
 員長の開会の辞。この中で、一般の部およびジュ
 ニアの部の投句実績、選考経過等が報告され、多
 くの方々の参加に感謝の挨拶があった。

能村研三会長の挨拶では、ジュニアの部が三回
 目となり、この俳句大会の充実はもとより、あら
 ためて、昨年度より、取り組んでいる千葉県俳句
 大賞の継続の他、本年度の事業を、更に充実した
 い旨の挨拶があった。

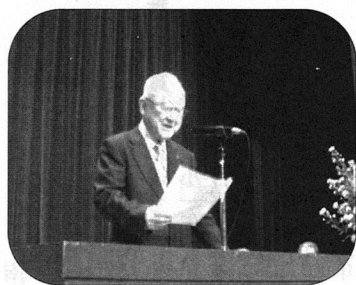
来賓として、千葉県環境生活部県民生活・文化
 課課長澁谷博之様、千葉市議会議長小松崎文嘉様、
 千葉市文化連盟会長藤代謙二様、千葉県芸術文化
 団体協議会会長秋原勲様の祝辞を頂いた。最後に、
 今年度の俳句大会の講演者であり、招待選者の現

代俳句協会副会長の鳴戸奈菜氏の紹介があった。続いて、顧問の今留治子氏、水見壽男氏の紹介があり、式典は終了した。

引き続き表彰式。事前応募句（一般の部二一七六句）の表彰、県知事賞を始め佳作賞まで賞品が授与された。続いて「ジュニアの部」（応募五〇一名）の表彰、小中学生二十九名に表彰状と賞品が授与された。作品について能村会長の温かい講評があり、三枝副会長の中締めで休憩へ。

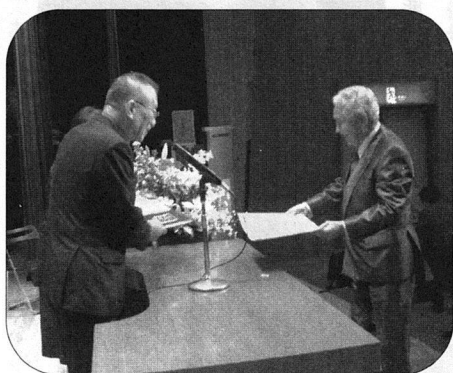
昼食後十三時十五分から鳴戸奈菜氏の講演「永田耕衣の世界」と、十四時から俳句大会・第二部が行われた。席題句の出句数二一八句。

今回は一般参加者の選句はなく、句稿が配られた。役員・招待選者の選句は、七句選（内特選一句）。披講は加藤、村上理事が担当。各選者の特選賞として披講の都度短冊が送られ拍手が沸いた。席題句の表彰は三十位まで賞品が授与された。



講評の三枝副会長

塩野谷、三枝副会長から懇切丁寧な講評があった。大会は三枝副会長の挨拶で十六時三十分盛會裡に終了した。（北川昭久記）



席題1位の門谷杜人氏

◆席題の部 席題「木の実」「葉」

【招待選者・鳴戸奈菜先生特選句】

てのひらを幼なくしたり木の実独楽 菅谷たけし

【入賞句二句合計点と代表句一句】

千葉市長賞 10点 門谷 杜人

もう誰も居ない母校に木の実降る

千葉市議会議長賞 9点 加藤 峰子

ポケットの木の実に鼓動あるごとし

千葉市教育長賞 9点 川合 憲子

ちははのはのはるけきははそ紅葉かな

千葉市文化連盟会長賞 8点 森川 哲男

しばらくは落葉にあずけるたき庭

千葉テレビ放送賞 8点 塩野谷 仁

木の実落つ天体少し傾けて

5位 8点 黒澤 雅代

日の暮れば木の実に戻る木の実独楽

6位 7点 茶谷 静子

人の世に地軸一本木の実落つ

7位 7点 安部由美子

木の実降るジャンケンポンの真ん中に

8位 7点 久野 康子

また別の水音にあう夕紅葉

9位 6点 菅谷たけし

てのひらを幼なくしたり木の実独楽

11位 6点 吉野まつ美

木の実降るプラスチックのすべり台

12位 6点 北川 昭久

掌に木の実この世の重さ一粒に

13位 6点 本池美佐子

手繰り寄す遥かな記憶木の実雨

14位 5点 細根 菜

うれしさの数だけ木の実降りつつく

15位 5点 藤岡 貞夫

落葉して風に素直になる大樹

16位 5点 三枝 青雲

人はみな何かに怯ゆ木の葉雨

17位 5点 椿 良松

兵のごとみなうつ伏せの朴落葉

18位 5点 屋間たつお

一人でも二人になれる紅葉酒

- 19位 木の实独楽まわせば海へかたむくか 5点 小林 実
 - 20位 吾亦紅言葉にすればありがとう 5点 吉岡 一三
 - 21位 目の前を過ぐる日月木の实落つ 5点 長井 寛
 - 22位 われに母母に母あり木の实降る 4点 増田都美子
 - 23位 一生の今は追伸草紅葉 4点 長濱 聰子
 - 24位 埋もれし古墳をノック木の实落つ 4点 佳田 翡翠
 - 25位 木の实踏む十戒の罪犯すごと 4点 湯浅 康右
 - 26位 木の实拾ふ遠き思ひも拾ひけり 4点 内山 重喜
 - 27位 木の实落つ梁太きジャズ茶房 4点 清水佑美子
 - 28位 ひとすぢの静かな滝や紅葉山 4点 代田 雅文
 - 29位 霧中より葉書一枚出て来たり 4点 荒木 洋子
 - 30位 氣迫満つ少女の指の木の实独楽 4点 秋尾 敏
- (事務局註) 事務の手違いで、10位が空位となつてしまいました。お詫びしてご報告致します。

- 大会出席者(五十音順)
- 秋尾 敏 安部由美子 荒木 甫 荒木 洋子
 - 飯田 協子 池田 惠子 石井紀美子 石橋みちこ
 - 伊藤 隆 伊藤 博康 五十嵐紀子 今留 治子
 - 上田 玲子 内山 重喜 大沢美智子 岡本 秀子
 - 長田 和子 岡澤 田鶴 小野 正之 小俣たか子
 - 香川 綾 加藤 東風 金沢りつ子 金子日出子
 - 金子まもる 加藤 峰子 柏崎清一郎 かしままこ
 - 川合 憲子 川崎 直子 北川 昭久 北野 善正
 - 楠原 幹子 倉岡 けい 久野 康子 黒子 静
 - 黒澤 雅代 小出美千代 小出 欣幸 後藤 且公
 - 小林 豊子 小林 実 齊藤 哲子 齊藤るりこ
 - 三枝 青雲 佐藤 映二 三枝かずを 坂本 正夫
 - 佐々木リサ 重田 忠雄 清水 和子 清水 怜
 - 清水佑美子 塩野谷 仁 椎名自由士 代田 雅文
 - 白鳥紅星子 菅谷たけし すぎき巴里 関戸 信治
 - 染谷 卓 滝口 滋子 高橋 健文 田所 節子
 - 谷本 元子 高橋 敏夫 田代 淑子 棚橋 朗
 - 茶谷 静子 月岡 千秋 椿 良松 椿 照子
 - 東條さくら子 長井 寛 中尾 京子 中瀬 みわ
 - 長濱 聰子 西村 英雄 能村 研三 服部 直道
 - 林 ゆみ 原 瞳子 稗田 寿明 平野 壽子
 - 平野みちよ 平岡 育也 昼間たつお 藤井 元基
 - 藤寄 弘乃 藤岡 貞夫 古谷 誠司 細根 栞
 - 本城 宏基 増田 善昭 増田都美子 松本よし彦
 - 前北かおる 水見 壽男 村上喜代子 豊 秀麿
 - 望月 百代 門谷 杜人 本池美佐子 森川 哲夫
 - 山崎 幸子 湯浅 康右 吉岡 一三 吉田 翡翠
 - 吉野まつ美 以上(一〇九名)
- (小野正之記・撮影一頁) 松本よし彦、すぎき巴里

新春交流会のご案内

広く会員の皆様の交流の場とすべく恒例の新春懇親俳句会を改め、「新春交流会」を左記の通り開催します。当日は第三回俳句大賞の贈賞式も行いますので皆様お誘いの上、ご参加くださいますようご案内いたします。

日時 平成30年2月11日(日) 受付12時30分
会場 ホテルプラザ菜の花
千葉県中央区長洲1-8-1
TEL 043-222-8271

一、第三回俳句大賞贈賞式 13時

二、新春交流俳句会 14時

投句 二句(事前投句)

投句料 一、〇〇〇円

三、新春交流祝賀会 16時

申込み締切り 平成30年1月15日(月)

申込み方法 所定の用紙に、俳句二句と指定事項を全て記載の上、二の参加者は投句二句と千円、二の三の参加者は投句二句と六千円を同封して左記へお申込み下さい。(現金書留または郵便小為替で送付。会費の返却は出来ません。)

註・欠席者への賞品は送付いたしません。

申込先

〒278-0037
野田市野田8-1 倉岡けい 方
千葉県俳句作家協会 新春交流会係
電話 04-7124-2130

平成29年度 秋季吟行会

市川市行徳界隈

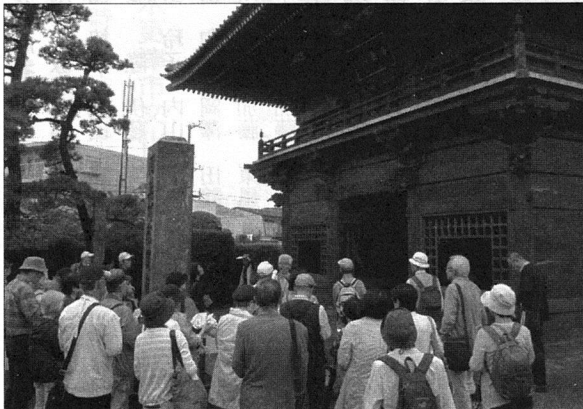
吟行記

市川市人口の約三分の一相当の十六万人が住む行徳地区は、徳川三代が伝統の塩づくりを奨励して天領となり、江戸中期からは成田山詣での人々の来訪でも賑わい、戸数千軒・寺百軒とも言われたところ。地名の「行徳」は、室町時代から記録に登場し、戦国時代、「徳」が高く、「行」が正しかった金海法印という山伏が「行徳さま」と崇め慕われたと伝えられることに由来するそうです。

吟行当日は、未明から千葉県一帯に大雨警報が出され、君津駅以南の内房線が一部不通となるなど交通網が寸断される事態となりました。しかし、集合場所の妙典駅付近は、案じられた雨風も収まり、吟行スタート時には、傘も畳みなくなるほどで、一同胸をなで下ろしました。ちなみに、「妙典」という地名は、日蓮上人のお題目「南無妙法蓮華経」に由来するそうです。

地元ボランティアの方の案内で、いわゆる「権現道」として残る狭い道沿いに歩き、三十三力所観音霊場の一番札所にあたる徳願寺やキリシタン灯籠のあることで有名な妙覚寺などを経て、旧江戸川を望む「常夜灯公園」へ。高さ四米にも及ぶ

常夜灯は、日本橋と結ぶ航路の安全祈願のため建てられたといえます。一方、当地区は、江戸中期から堅牢な神輿づくりの地としても栄えました。それは、寺院の多い行徳に住みついた仏師たちが神輿づくりも引き受けたことに由来しますが、今も製造から販売まで手がける中台神輿がその歴史を伝えています。



吟行地 徳願寺



会場風景

会場の行徳文化ホールには、七十七名の仲間が顔を揃えて定刻に開会、秋尾敏理事長の開会のことばに続き、能村研三会長より、まず悪天候にもかかわらず一同が万障繰り合わせて参加したことに対する謝意がありました。あわせて、芭蕉や十返舎一九らも訪れたというこの地区の歴史的背景や見どころなどについてのお話がありました。

これに続いて、当日句(各二句、計百四十八句)の清記稿二枚が配布され、選句開始となりました。係りの皆さんの手順も良く、予定より三十分早く午後二時より披講開始となり、加藤峰子、すぎき

巴里、菅谷たけし（披講順）の三氏による披講が聞き取り易い朗々たる声で行われました。十分休憩の後、すずき巴里さん、来賓の吉田翡翠日本伝統俳句協会関東支部千葉部会長、増成副会長、能村会長の順に、特選句を中心にした丁寧な講評をいただきました。

表彰式では、賞品を用意した幹事さんが内房線の一部区間運休により参加できなかったため、賞品（図書券）は後日郵送となる旨の前置きのあと、高句作者に対し、その代わりとして、トロフィーに見立てたペットボトルのお茶が、壇上の会長より一人一人に手渡され、会長の熱い握手の祝福を受けるというほほえましい場面もありました。

午後四時過ぎ、閉会のことばが秋尾敏理事長より述べられたあと、会場のホール前の広場での記念撮影、散会となりました。

（佐藤映二記）

秋季吟行会作品集

特選句

能村研三会長特選

塩場寺は素秋心眼開きたし

木之下みゆき

増成栗人副会長特選

秋寂ぶの風聴く雨の常夜燈

岡澤 田鶴

秋尾 敏理事長特選

天領に隠れ耶蘇とはちちろ虫

中西 恒弘

川台憲子副理事長特選

弁柄の寺門色なき風とほる

箕輪カオル

入賞者と代表作品（○内は順位）

- ① 寺町の奥に奥あり昼の虫 荒木 洋子
- ② 軒深くして露けさの神輿店 矢田 涼
- ③ 常夜燈海とほくして草の花 平城 静代
- ④ 潮の香の濃くなるところ草の花 佐藤 弘子
- ⑤ 常夜燈に舟路の名残鳥渡る 石橋みちこ



入賞者全員で記念撮影 前列左より5人目、1位の荒木洋子氏

その他の作品

- ⑥ 色変へぬ松を笠とし芭蕉句碑 大久保文夫
- ⑦ 職人の無口の胡坐秋じめり 坂場 章子
- ⑧ 地下道に蟋蟀鳴けり急がねば 望月 百代
- ⑨ 山門の風は色なき弥陀の風 細根 葉
- ⑩ 冷まじや静脈太き仁王尊 楠原 幹子
- ⑪ どしゃ降りの雨や秋思がうずくまる 石井紀美子
- ⑫ 今はただ花野となりし河岸の跡 佳田 翡翠
- ⑬ 秋寂ぶの風聴く雨の常夜燈 岡澤 田鶴
- ⑭ 玉砂利も軒雨だれも秋の音 中村 世都
- ⑮ 水運のまぼろし彼岸花群るる 古在 路子
- ⑯ 天領の余風に実る榎植かな 平山 武彦
- ⑰ おみこしの匠の意気にふれて秋 山口 明
- ⑱ 秋時雨修理神輿の木の香り 西村 将昭
- ⑲ 芒穂の瑞々しきは直立す 荒木 甫
- ⑳ 秋深し権現道は寺を据ゑ 下村たつゑ

製塩の来歴探る昼の虫

常夜燈に江戸よりの風猫じゃらし 藤岡 貞夫

雨止みし木より鳴き出すつくつくし 茶谷 静子

秋めけりヴィオロン提げて寺の町 高橋 健文

むかしここに行徳船や秋の雨 木澤 恵司

秋湿り袋小路の漁師町 川合 憲子

秋気満つ筋骨太き仁王尊 丸澤 孝子

秋気満つ筋骨太き仁王尊 鈴木 豊子

| | |
|----------------|-------|
| 寺町に神社の多しホ句の秋 | 松本よし彦 |
| 吟行の徳か損かと秋の雨 | 平岡 育也 |
| 踏まれたる邪鬼の口より秋の声 | 菊地 光子 |
| 権現道盗人萩の実の真黒 | 増成 栗人 |
| 賞状の並ぶ神輿屋秋の声 | 平野みち代 |
| 寺の町出て寺の町小鳥来る | すずき巴里 |
| 色変へぬ松や山門重々し | 片岡伊つ美 |
| 塩場寺の潮の句碑や新松子 | 小林 陽子 |
| 塩の道馳せて見上ぐる常夜灯 | 本池美佐子 |
| 白露に鎮もりにけり常夜灯 | 鎌田 光恵 |
| 秋灯しともさば美しき常夜燈 | 久礼 隆志 |
| 磨かるる御輿よ秋は蘭に | 水沢 和世 |
| 黒松の傾くままに秋思かな | 成田 美代 |
| 秋の川眺むる余生常夜燈 | 甕 英磨 |
| 雨上がる河口に鱈の飛ぶひかり | 菅谷たけし |
| 秋薔薇の棘の光りて晴れてくる | 増田 豊子 |
| 秋時雨常夜燈へと案内受く | 間部美智子 |
| 潦踏みもし寺の町さやか | 高橋 道子 |
| 秋の風寺院あまたの町巡る | 米倉 典子 |
| 汐寂びの常夜灯やや寒しかな | 上田 玲子 |
| 水は怖いよ江戸川べりの新松子 | 原田 達夫 |
| 六地藏守る行徳とべらの実 | 三浦 侃 |
| 難解な句碑うたがはず秋曇 | 五十嵐紀子 |

| | |
|----------------|-------|
| 梵天の一つ吹かれて海の秋 | 倉岡 けい |
| 門柱の深彫り文字に秋の風 | 伍島 繁 |
| 秋草やくねくね権現新住民 | 小林 俊子 |
| 由緒ある寺の荒れをり秋の草 | 須藤 義紀 |
| 川風に多のころ草と常夜灯 | 豊島 京子 |
| 赤のままS字カーブの多き町 | 築 幸枝 |
| 新松子波立つ川の船溜り | 都丸れい子 |
| ありありと水脈爽涼の常夜灯 | 秋尾 敏 |
| 秋霖に拝殿昼を灯しをり | 谷本 元子 |
| 爽やかや匠の技の残る町 | 塩野谷慎吾 |
| つゆけしや御輿合はせの小鉤 | 能村 研三 |
| 萩の雨気に病む言葉ひとつあり | 龍花とも子 |
| そぞろ寒昔のほふ町歩く | 渡辺 紀子 |
| 秋暮るる車窓の雨滴意志もてり | 島田富美子 |
| 再びは来るとはあらじ寺の秋 | 宇根 幸子 |
| 涼いくつ飛び越ゆ秋の寺 | 梁原 善子 |
| 朝顔の種採る人に会釈され | 岩下三香子 |
| 気にかけし週間予報燕去ぬ | 鈴木 るる |
| 物腰に品のありけり白桔梗 | 河野 悦子 |
| 新松子シャベルの把手アトム君 | 佐藤 映二 |
| ざくろ熟る川波みらい未来へと | 加藤 峰子 |

(平岡育也記・撮影細根 葵)



参加者全員にて記念撮影 (市川市行徳文化ホール前)

千葉県俳壇ニユース

鶉宿に能村研三会長の句碑建立

「鶉様道中の宿保存会」の依頼で、「沖」主宰・当協会会長能村研三氏の句碑が石川県中能登町良川の鶉宿に建立された。

昨年十二月十六日早晩に行われた「鶉祭」を見学され詠まれた句が刻まれた。



鶉に勧進眉丈の夜気の冴ゆるかな 研三 (「沖」十月号より)

連盟創立十五周年記念

我孫子市民俳句大会・記念特別講演

我孫子市俳句連盟は創立十五周年を迎え、五月二十八日(日)、我孫子市地区公民館に於いて、記念俳句大会と特別記念講演に「沖」主宰・俳人協会理事長・俳句作家協会会長の能村研三氏を迎え、参加者二二六名にて盛大に開催した。

能村研三先生特選

天 夏燕棚田に千の水鏡 榎本聖游子
地 紅涙の絶へずして降る桜しべ 梅澤 光子
人 ふるさは変はれど変はらず桜咲く 吉田たけを

入賞作品・代表句(二位〜二十五位の内)

- 首位 夏燕棚田に千の水鏡 榎本聖游子
- 二位 日暮まで遊べ遊べと葱坊主 鈴木 公子
- 三位 柳絮飛ぶ川面の光まとひつつ 原 瞳子
- 四位 逃げ水の彼方へハーレーダビットソン 長島 賢二
- 五位 風光る掃き清めたる通学路 大平 芳江

(我孫子市俳句連盟「会報」十五号より)

佐原あやめ俳句大会

千葉県俳句作家協会会長賞(席題の一部一位)

滝落つる杉千幹に飮して 埴 かほる

七月二日(日)香取市佐原公民館に於いて、三周年記念の佐原あやめ大会として開かれた。出席者九十名、欠席投句者四十七名。講師及び選者として、県俳句作家協会関係者、会長能村研三先生、理事長秋尾敏敏先生、理事の三枝青雲、菅谷たけし、北川昭久、平岡育也、細根菜の皆さんのご協力、ご指導のもと無事終了。

尚、三十周年記念行事として、会長能村研三先生のご講話「俳句ルネッサンス」を拝聴する。又、記念のひとつとして、本会の生みの親、増田斗志、香取哲郎(両氏とも協会理事)の功績を称えて、両名の名前の一字を戴き「斗哲賞」を創設しました。

これにより一層の地域俳句の進展に努力する。

- 入賞者
- 三越三千夫賞 増田都美子
 - 県教育長賞 埴 雪子
 - 市長賞 矢萩ゆたか

(坂本正夫記)

「軸」創刊五十周年記念俳句大会・祝賀会

秋尾敏主宰軸俳句会は、六月二十五日(日)創刊五十周年記念俳句大会・祝賀会を柏市のザ・クエストホテル柏において開催した。宇多喜代子現代俳句協会特別顧問、当協会の能村研三会長、増成栗人副会長、塩野谷仁副会長をはじめ来賓三十九名、会員百十名が集う大会となった。

午後一時より開始した第一部では顕彰者の表彰、俳句大会の結果発表及び授賞が行われた。

三時からの第二部では音楽家美野春樹氏のピアノ演奏に始まり、参加者全員の記念集合写真撮影があり、大会委員長挨拶、主宰挨拶、来賓挨拶と続き招待選者の有意義な選評が行われた。当日の参加者には秋尾主宰の新著「俳句の底力」、合同句集「軸燦燦」が配布された。また祝賀会会場前のロビーでは中島斌雄揮毫の掛軸、色紙をはじめ軸俳句会所蔵の貴重な掛軸、色紙等の回顧展も行われ、大会は午後七時盛會裡に終了。

俳句大会の上位入賞者と代表作品

- 陽炎を踏んで遣伝子まで透ける 平林 啓子
- 鳥帰る海のこぼれてゆくほうへ 松井 真吾
- 葭笛が先師の声に水の綺羅 栗山 和子
- 夏近し向う岸まで跳べそうな 平岡 育也
- 梅雨晴間なり垂直に蔵書印 赤羽根めぐみ
- 東京の従妹が来る日ももの花 清野 敦史
- 飛花落花そろそろ人に戻ろうか 表 ひろ

(平岡育也記)

「野火」誌創刊八五〇号記念号刊行

菅野孝夫主宰「野火」誌は、本年七月号を以て創刊八五〇号に達成し、同号を「創刊八五〇号記念号」とし発行。(「野火八五〇号を迎えて」(「野火八〇一号」八五〇号の検証) (八五〇号記念賞発表) (記念作品集・評論・エッセイ) 他、充実した構成にて二三〇頁余の大冊となった。慶祝。

なお、創刊八五〇号を記念して合同句集(「真木」別項に紹介)を刊行。

創刊八五〇号記念賞 「春の沼」 安井 義一

永き日の砂洲や沖向く捨て小舟 義一

記念賞入選 柏木はる子・栗原 律子

記念賞佳作 中根 栄子・大越 秀子

仲代 知子・阿部 誠文

長谷部かず代・和田 秀巳

(「野火」七月号より)

第五十五回柏市民俳句大会

柏市俳句連盟主催の第五十五回市民俳句大会は、八月二十六日中央公民館において、一〇〇名の参加を得て盛大にとり行われた。

上位入賞者及びその代表句は、次の通りである。

招待選者・会長・顧問天賞作品 (選者敬称省略)

秋尾 敏選

少し胸焼け霧雨の終戦日

松澤 伸佳

北川 昭久選

球児らの一念炎天の重さ

田村 隆雄

鳴戸 奈菜選

心太さびしき喉を通りけり

吉田 叔子

藤岡 貞夫選

蓮の花遠くに浮かび観世音

須藤 義紀

松田 雄姿選

敗戦忌人それぞれの山河あり

根岸 馨

入賞者 (互選三句合点) 代表句

市長賞

フライパン片手で夏を裏返す

星野 一恵

議長賞

コスモスの知り尽くしたる風の癖

吉沢美佐枝

教育長賞

底紅や己が矜持を包み散る

鈴木 一三

会長賞

謳歌してやがて挽歌や蝉の声

鴨 松男

⑤ 点と点結べば神話星月夜

石渡 美子

⑥ 幸せの愚痴聞き崩すかき氷

吉田 叔子

⑦ 過疎となる村の余白に赤とんぼ

青木 一夫

⑧ 青柿落つこつんと闇に穴あけて

秋山 冷子

⑨ 栗おこわ女三人黙らせて

池田 恭子

⑩ 少年に青き夢あり銀やんま

荒木 甫

(柏市俳句連盟 鈴木二三記)

木更津市文化祭第四十一回市民俳句大会

日時 平成二十九年九月三日(日) 一時〜

会場 木更津市立中央公民館

主催 木更津市文化協会 参加者四十五名

入賞者 (三句合点) 代表句

① どの子にも帰る家あり秋夕焼

鈴木 秀朗

② 遠き日の夕餼の匂ひ赤とんぼ

中村 瞳

③ もう「おい」と呼べる人なき今日の月

広上 あい

④ 小鳥くる小さな椅子の一つ増え

加藤 法子

⑤ 出来る事出来る喜び涼新た

堀口 節子

⑥ この土地に暮す歳月椿の実

岩瀬由美子

⑦ 一病が荷物の一つ鱈雲

坂井美美子

⑧ うしろから父似の声や盆支度

保坂ミエ子

⑨ ふくよかな志功女菩薩紅芙蓉

國武 和子

⑩ 花野来て縛られぬ身のふと侘し

斉藤すす子

(市民俳句大会実行委員長 川合憲子記)

ろんど創刊二十五周年記念特集

すすき巴里主宰「ろんど」誌は、創刊二十五周年を迎え、五月七日、上野精養軒に於いて「創刊二十五周年記念全国ろんどのつどい」を開催し、本誌七月号に特集を編んだ。慶祝。

(主宰の挨拶) (公益社団法人俳人協会能村研

三理事長の記念講演) 小熊座同人・津高里永子、

百鳥編集長・望月周氏等八名が執筆の(ろんどの

つどいに参加して)を掲載。グラビアの二十五周

年記念アルバムが盛大な記念大会の模様を伝える。

桜から桜へ渡す丸木橋

すすき巴里

(「ろんど」七月号より)

結社賞

第44回 (平成二十九年年度) 響焰賞

響焰賞 松村五月

黄金週間スウィングジャズのように雨 五月

佳作 森田成子・西 博子・榎井正隆

太陽の子供となりて麦藁帽 成子

裘ころろ大きく躰いて 博子

石仏のまるい耳朶忘れ草 正隆

(「響焰」五月号より)

「軸」創刊五十周年記念結社賞

軸作家賞 表 ひろ・小林俊子・塚 房男・

杉山真佐子・福田榎子・安田政子

無花果の昏く熟れたる雨催い ひろ

爆風や百のひまわり焼きつくす 俊子

鯉のぼり仲間とコーラス晴れ舞台 房男

鳥の恋メモに名画のマグネット 真佐子

流されていてもわが道行々子 榎子

ひき寄せる記憶に春を待つ墓標 政子

(「軸」八月号より)

第十五回 万象新人賞・万象俳句賞

新人賞 中村 弘

見上ぐれば喉の冷たき初桜 弘

万象俳句賞 中村千久

八木節の鳴つて夏野へ動き出す 千久

県内俳句協会・俳句連盟紹介

大多喜町文化団体連絡協議会

大多喜俳句会



大多喜町は昭和二十九年の町村合併で、一町四村が合併し大多喜町となりました。大多喜町になってより六十三年になります。

大多喜町文化団体連絡協議会には、約四十のサークルがあり、「大多喜俳句会」はその中の一サークルとして活動しています。

掘割や藪鶯を両の耳

子規

この句は、明治二十四年三月、正岡子規が房

総行脚の折、大多喜の地において詠んだ数句の内的一句と言われています。

私共「大多喜俳句会」は、先人のご尽力により、昭和五十六年四月に発足し、爾来、三十六年が経ち、会誌「萬符」も四三〇号を越えました。会誌名の「萬符」は、江戸時代、上総大多喜藩主松平家八代松平正和公の俳号から拝借したものです。

大多喜町は古来より俳諧は大変盛んであったように聞いております。

当会の最盛期には、会員は二十数名おりましたが時代の趨勢とともに減少し、現在は僅か数名にて、月一回何とか活動している状態です。

(大多喜俳句会会長・鋤柄直紀記)

万象佳作 卯辰美苗・恒川清爾・曾根 満

白百合の大きく開く枕花 美苗

死の門へ鉄路伸びたる夏野かな 清爾

紙を漉く歪むわが顔均しては 満

(「万象」八・十月号より)

平成二十九年年度「鴻」結社賞

第十一回「鴻」賞 森川淑子

梅雨茸の真つ赤といふは寂しさう 淑子

新人賞 井上つぐみ・森 祐司

一本の線香花火のものがたり つぐみ

雪明り酔うて深海魚となるか 祐司

第三回「鴻」俳句賞 美濃律子

春の風バステルカラーの付箋買ふ 律子

(「鴻」七・十月号より)

会員著書紹介

●野火作家作品集

野火俳句会 編

菅野孝夫主宰「野火」が創刊八五〇号を記念して刊行された野火叢書第一二二集の合同句集。

一人二十句、参加者一六〇名。作品第一主義を標榜とする野火誌、一六八頁の大冊である。

当協会員は少なく、中村真砂雄氏のみが活躍されている。

前主宰・主宰・中村氏の作品を紹介

いま盛りまだまだ盛り百日紅 池田 啓三

冬の川冬のまんなか流れけり 菅野 孝夫

二歩三歩立てば歩めの雛の前 中村真砂雄
七十路の猪突猛進年詰る 中村真砂雄

(平成29年5月発行・野火俳句会)

●合同句集軸燦燦

軸俳句会 編

― 軸創刊五十周年記念 ―

「軸」の創刊五十周年を記念して刊行された合同句集。河合凱夫前主宰・秋尾敏主宰の作品其々二十句を筆頭に、同人・会員・会友各十句、故人作品各五句、新入会員の一句を掲載。グラビアに各時代の記念写真を、巻末に「軸のあゆみ」を付した二五〇頁余のアンソロジー。

「形骸化した形容を避け、類型化した句を作らぬこと」が軸の社是とのこと。独自の発想や複眼的に見つめる視線と感性が生みだした作品群が光る。

当協会員一部の作品を紹介する

はればれと冬蝶海へ死ににゆく 河合 凱夫
冬の川記憶の川に流れこむ 秋尾 敏
三月のレモンがいびつ私小説 荒木 洋子
つくつくし八という字に噴火口 稲垣 恵子
人間にいろいろな門小鳥来る 木之下みゆき
とんぼうが洗いざらしの翅でくる 倉岡 けい
どんぐりの過去へ傾くオルゴール 小林 俊子
黒ぶどう挿めき合って肩が凝る 野口 京子
マシユマロの声で呼ばれる麦の秋 平岡 育也
万緑の骨組となる父の椅子 山崎 政江

(平成29年6月発行・軸俳句会)

●『俳句の底力』

秋尾 敏 著

― 下総俳壇に見る俳句の実相 ―

秋尾敏主宰「軸」創立五十周年を記念する一書。本誌はⅢ章からなり、Ⅰ章は十七項目に分けられ近代俳句以前の俳句資料を記し、Ⅱ章は俳文芸の近代化への歩みを十三項目に、Ⅲ章は現在の下総俳壇が形成されていく過程を十五項目にて述べ、通して四十五項目の構成になっている。

一茶から「軸」創刊に至る下総俳壇の流れを資料に添って丁寧な記述し、何れの項目も興味深い内容である。俳句に地域に情熱をそそぐ著者ならではの本書、まさに俳句の底力を見せつける。

全国俳誌協会会長・現代俳句協理事・千葉県現代俳句協会会長・野田俳句連盟会長他・著書多数

(平成29年6月発行・東京四季出版)

●句集『森の在所』

井上けい子 著

句集『雪ぼたる』に次ぐ第二句集。平成二十三年よりの作品三七一句を収載。平成十一年「水明」同人。新珠賞、水明賞、季音賞受賞の実力作家。二十二年「遊牧」代表塩野谷仁氏の講義に魅せられ「遊牧」に入会し、新境地に傾注を深め現在に至る。昭和六年朝鮮京城府生れ、柏市在住。表題は(秋蟬に森の在所を知らざる)に依る。序を塩野谷氏がよせ、著者の明晰さ、真摯な俳句への取り組み方、意欲、言語感覚の良さを称える。

現在「遊牧」同人、現代俳句協会会員。

待ち過ぎて狂女となりし葉鶏頭
秋蟬に森の在所を知らざる

散骨の海果てしなく冬銀河
蛍袋のなかに密かな隠し人

(平成29年8月発行・文學の森)

●作品集「はたざわ」

はたざわ俳句会 編

「はたざわ俳句会」は、平成九年九月に創立し現在会員十七名で活躍の俳句会である。

毎年「年度作品集」と「会報」を発行し、この度二十周年を迎えての特集号。一人二頁をつかい、作者のカラー写真を添え、作品十五句と短文を掲載。読み応えのある印象的な作品集である。

当協会員の作品を紹介する

二本杖羽根にかえてよ揚げ雲雀 坂本千恵子
雲雀野やチンギスハーンの馬駆ける 保坂ミエ子
吾に欲しき久女の狂気白樺 三苦 知夫
風の尾が野火跳ねあげて空焦がす 山田たかし
小春日を背中に集めペンキ塗り 吉田 安子
桶洗うぐるりとまわす春の空 金澤 恵子
いつの間に一族の長山笑う 國武 和子
紫陽花に明暗のあり盛りなり 久保さちを
春光を回せば出来る二重跳び 広上 あい
蛍狩り終えて一人の灯に帰る 斉藤すず子

(平成29年9月発行・はたざわ俳句会)

締切り迫る!!

第3回千葉県俳句大賞

- 【応募条件】** 千葉県内に在住し、平成28年12月1日～平成29年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。当協会の役員をされている方は応募出来ません。
- 【応募方法】** 自薦、他薦は問いません。千葉県俳句作家協会担当者まで句集と自選20句(自薦・他薦共に)を添えてお送りください。
- 【応募締切】** 平成29年11月30日(木) 必着
- 【賞】** 大賞には賞状、記念品、賞金5万円
- 【応募先】** 〒276-0036 八千代市高津 390-211 千葉県俳句作家協会顕彰部 「千葉県俳句大賞」担当 村上喜代子 宛 ※封筒の表に『俳句大賞応募』と朱書きしてください。
- 【選考委員】** 能村研三、増成栗人、三枝かずを、塩野谷仁、秋尾 敏、村上喜代子
- 【表彰】** 平成30年2月11日(日・祝) 新春交流俳句会の席上にて表彰します。

第32回協会賞の作品募集

- 【募集句数】** 20句 新作未発表の作品で「題名」を付す
- 【審査料】** 3,000円 応募作品に郵便小為替同封のこと。
- 【締切】** 平成29年12月15日(金) 必着のこと
- 【審査員】** 秋尾 敏・川合憲子・三枝かずを・塩野谷仁・染谷 卓・田所節子・能村研三・増成栗人・村上喜代子
- 【賞金】** 3万円
- 【投句先】** 〒265-0077 千葉市若葉区御成台 3-26-6 石橋方 『千葉県俳句作家協会顕彰部 協会賞』係 宛 ※封筒表に『協会賞応募』と朱書きしてください。
- 【投句用紙】** 詳細は「真木」182号7頁をご覧ください。

新入会員一句

ピノキオは未だ木の鼻小鳥来る
 ダンサーのやうなワイパー五月雨
 滴りに涙に濁りなかりけり
 打ち水や庭の端より風生まる
 杉の葉の針は上向き仏法僧
 古書整理の決心をする溽暑かな
 つぎの風まではらはらと山桜
 春つていうと屢が追いかけてくる
 煽やかに風を遊ばせ百日紅
 虚貝寄する浜辺や秋の声
 広島忌紙片となりて蝶の飛ぶ

高木 一恵
 木部 圭三
 実方 道子
 高山喜佐子
 服部 直道
 鋤柄 直紀
 染谷 秀雄
 久野 康子
 奥 保夫
 佐瀬 忠義
 小林 愛子

受贈誌より

あびこ(三三三三号)
 ぼうたんの刹那の風に崩れけり
 いには(十月号)
 青田原風の舞台となりけり
 浮巢(十一月号)
 木道に視野展けゆく大花野
 沖(十月号)
 そよがずに句はずにゐる曼珠沙華
 音信(十月号)
 裸電球ゆれて出湯の秋深む
 かずさホトトギス(五八〇号) 松風(五十一号)
 建つ家も朽ちゆく蔵も露の秋

染谷 卓
 村上喜代子
 大木さつき
 能村 研三
 白鳥紅星子
 三枝かずを

事務局日誌

- ◆第三回理事会(出席者三十一名)
 日時 8月19日(土) 14時から16時
 会場 千葉市「ホテルプラザ菜の花」
- 1 第59回千葉県俳句大会について
- 2 秋季吟行会について
- 3 千葉県俳句大賞について
- 4 協会賞の贈賞式について
- 5 新春交流俳句大会・贈賞式・祝賀会について
- 6 会報「真木」一八三号について
- 7 事務局報告、その他

会員異動

高木 一恵(船橋市) 木部 圭三(東金市)
 実方 道子(山武市) 高山喜佐子(市原市)
 服部 直道(千葉市) 鋤柄 直紀(夷隅郡)
 染谷 秀雄(千葉市) 久野 康子(野田市)
 奥 保夫(千葉市) 佐瀬 忠義(東金市)
 小林 愛子(横浜市)

河辺 智文 益田 清
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

益田 清当協会顧問(第七代会長)が、去る十月二十三日逝去されました。行年九十歳。氏のこれ迄の多大な功績を称え謹んで哀悼の意を表します。なお詳細は次号に掲載させていただきます。(紀)

川(十月号)
 人の世に残日のある小春かな 松山 足羽
 響焰(十一月号) 山崎 聰
 飯の世を大きく外れ夏野原
 草の実(十月号) 逸見 真三
 摘み取るにしのび難きよ花茗荷 (次号へ続く)

千葉県俳句作家協会 祝45周年

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二丁目一六谷口方
電話 〇四七-三六三-四五〇八
FAX 〇四七-三六六-五一一〇

誌代/年間 二一,〇〇〇円

鴻 koh
「鴻」俳句会



心を満たす俳句

主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

創刊 昭和23年

原 人

伝統俳句に現代の詩情を

名譽主宰 三枝 青雲
主宰 昼間たつお

誌代 一年 二一,〇〇〇円
発行所 原人社

〒260-0824 千葉市中央区浜野町四〇七十六
TEL・FAX 〇四三-二六五-四三三三
振替口座番号 〇〇一七〇-四一六四八五九七

人間の総量を

鳴

創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮
選者 高橋道子

誌代 一ヶ月 一,〇〇〇円(送料共)
一年 一二,〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四-七-一三〇五
荒木甫方 **鳴** 発行所

電話 〇四七-一三三-七六三二
振替 〇〇一八〇-四一六-一五七二
<http://shigei-haikukai.com/>

月刊俳誌

沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖 発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年

軸

軸 俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
82円切手3枚で見本誌贈呈

創刊二十五周年
俳句文芸の真・新・深を志す

ろんど

創刊 鳥居おさむ
主宰 すぎき巴里

誌代 一年 一二,〇〇〇円

〒262-0042 千葉市花見川区花島町四三-二-一〇
ろんど 発行所

電話・FAX 〇四三-二五八-〇一一一
本部 〒167-0023 東京都杉並区上井草一-二八-二
振替 〇〇一五〇-九一七-〇二一〇七

俳誌 **あびこ**

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一七-二八二-四四四一

郵振替 〇〇一〇〇-一四一-一八九〇七四

あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ

いには
INWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索：いには俳句会

現代俳句同人誌 師系 金子兜太

遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七-一-二一三〇七
遊牧俳句会

電話 〇四七-三三六-一〇八一
FAX 〇四七-三二五-七七三八